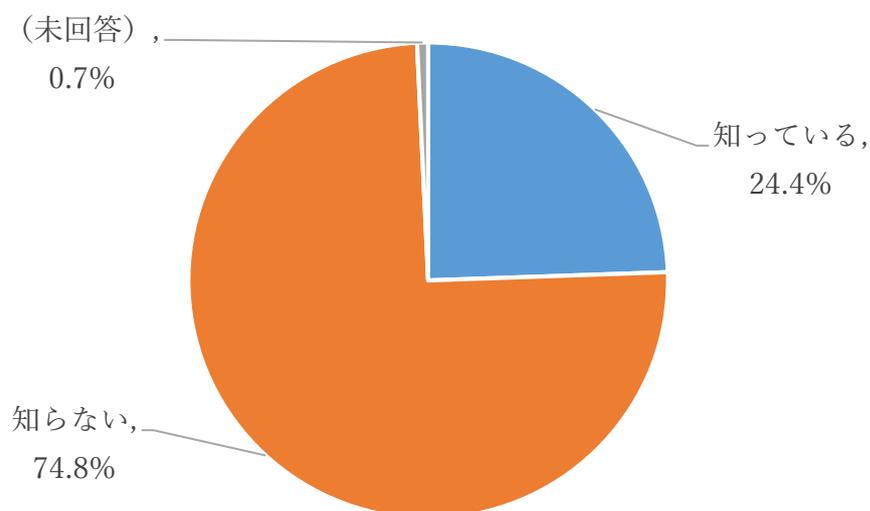


問9 本市では、自然環境の保全に取り組む様々な団体が活動しています。

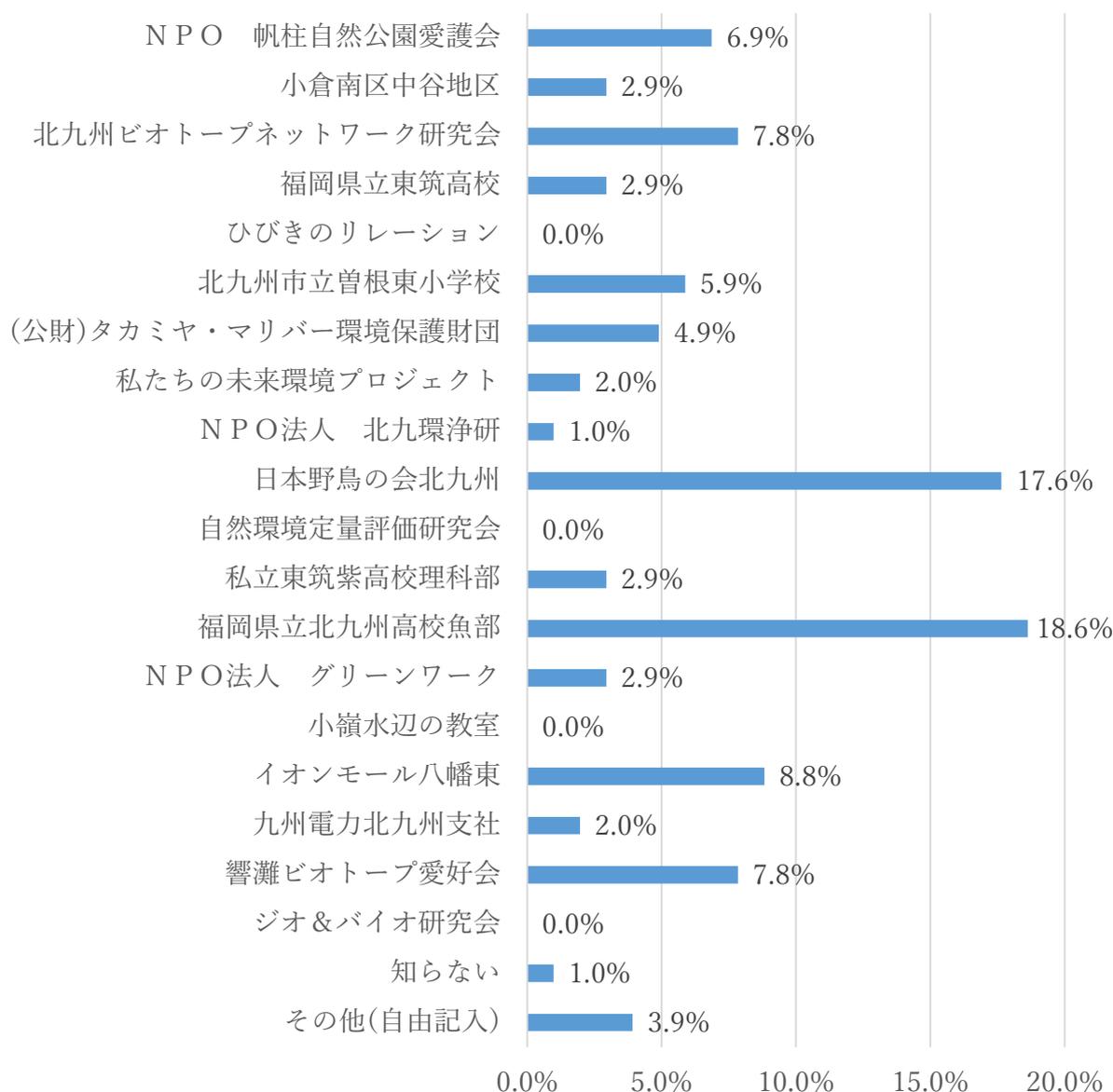
問9-1 自然環境の保全に取り組む団体について、知っていますか。



		回答者数	知っている	知らない	(未回答)
全体		135	24.4%	74.8%	0.7%
性別	男性	60	33.3%	66.7%	0.0%
	女性	75	17.3%	81.3%	1.3%
年代別	20歳代以下	15	26.7%	73.3%	0.0%
	30歳代	15	13.3%	86.7%	0.0%
	40歳代	27	11.1%	88.9%	0.0%
	50歳代	19	10.5%	89.5%	0.0%
	60歳代	33	42.4%	57.6%	0.0%
	70歳代以上	26	30.8%	65.4%	3.8%
区別	門司区	13	15.4%	84.6%	0.0%
	小倉北区	22	19.0%	81.0%	0.0%
	小倉南区	33	24.2%	75.8%	0.0%
	若松区	9	0.0%	100.0%	0.0%
	八幡東区	10	50.0%	50.0%	0.0%
	八幡西区	39	30.8%	69.2%	0.0%
	戸畑区	9	20.0%	70.0%	10.0%

全体として、「知らない (74.8%)」と回答した人が最も多く、世代別でも、すべての世代で「知らない」が多い。

問9-2 問9-1で「1 知っている」を選択した方にお尋ねします。  
 自然環境の保全に取り組む団体について、どのような団体を知っていますか。  
 (複数回答(いくつでも)可)



【その他(自由記入)を選択した方の回答】

- ・湿原の会(男性 40歳代 八幡西区)
- ・ラブリバー撥川ネットワーク(男性 40歳代 八幡西区)
- ・関門スナメリの会(男性 60歳代 八幡西区)
- ・馬島清掃団(男性 60歳代 門司区)

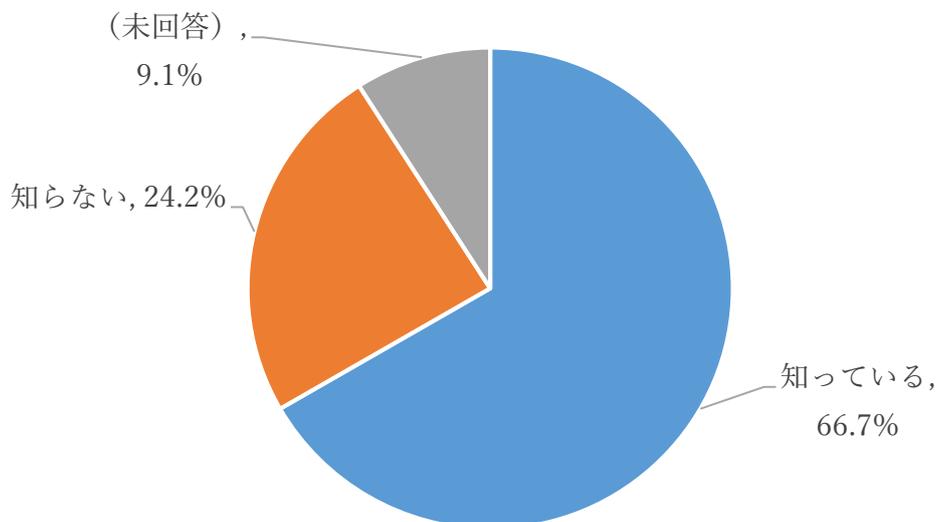
全体では、「福岡県立北九州高校魚部」(18.6%)が最も多く、次いで「日本野鳥の会北九州」(17.6%)が多い。  
 年齢別では、20歳代以下、40歳代及び70歳代以上で「福岡県立北九州高校魚部」が最も多く、30歳代では「イオンモール八幡東」、50歳代では「北九州ビオトープネットワーク研究会」「日本野鳥の会北九州」「福岡県立北九州高校魚部」が同率、60歳代では「日本野鳥の会北九州」が最も多い。

問9-2 自然環境の保全に取り組む団体について、どのような団体を知っていますか。  
 (複数回答(いくつでも)可)

【集計表】

	回答者数	NPO 帆柱自然公園愛護会	小倉南区中谷地区	北九州ビオトープネットワーク研究会	福岡県立東筑高校	ひびきのリレーション	北九州市立曾根東小学校	(公財)タカミヤ・マリパー環境保護財団	私たちの未来環境プロジェクト	NPO法人 北九環浄研	日本野鳥の会北九州	自然環境定量評価研究会	私立東筑紫高校理科部	福岡県立北九州高校魚部	NPO法人 グリーンワーク	小瀬水辺の教室	イオンモール八幡東	九州電力北九州支社	響灘ビオトープ愛好会	ジオ&バイオ研究会	知らない	その他(自由記入)		
全体	33	6.9%	2.9%	7.8%	2.9%	0.0%	5.9%	4.9%	2.0%	1.0%	17.6%	0.0%	2.9%	18.6%	2.9%	0.0%	8.8%	2.0%	7.8%	0.0%	1.0%	3.9%		
性別	男性	20	7.7%	3.1%	7.7%	4.6%	0.0%	6.2%	3.1%	0.0%	15.5%	0.0%	4.6%	16.9%	4.6%	0.0%	6.2%	1.5%	7.7%	0.0%	0.0%	6.2%		
	女性	13	5.4%	2.7%	8.1%	0.0%	0.0%	5.4%	8.1%	5.4%	16.2%	0.0%	0.0%	21.6%	0.0%	0.0%	13.5%	2.7%	8.1%	0.0%	2.7%	0.0%		
年代別	20歳代以下	4	0.0%	0.0%	11.1%	11.1%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	11.1%	0.0%	11.1%	33.3%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	30歳代	2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	40歳代	3	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	18.2%	0.0%	0.0%	27.3%	9.1%	0.0%	9.1%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	18.2%	
	50歳代	1	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	9	13.2%	5.3%	7.9%	2.6%	0.0%	5.3%	0.0%	2.6%	0.0%	21.1%	0.0%	2.6%	15.8%	2.6%	0.0%	2.6%	0.0%	13.2%	0.0%	0.0%	5.3%	
	70歳代以上	4	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	
	小倉北区	4	15.8%	5.3%	10.5%	10.5%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	15.8%	0.0%	5.3%	10.5%	5.3%	0.0%	10.5%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	小倉南区	8	0.0%	8.3%	4.2%	4.2%	0.0%	16.7%	4.2%	4.2%	16.7%	0.0%	4.2%	20.8%	4.2%	0.0%	4.2%	0.0%	4.2%	0.0%	4.2%	0.0%	0.0%	
	若松区	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	八幡東区	5	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	20.0%	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%	13.3%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	
	八幡西区	12	8.6%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	2.9%	2.9%	22.9%	0.0%	0.0%	17.1%	2.9%	0.0%	5.7%	0.0%	11.4%	0.0%	0.0%	8.6%	
	戸畑区	2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	

問9-3 問9-2で「21 知らない」以外を選択した方にお尋ねします。  
 団体の活動について、どのような活動を行っているか、知っていますか。

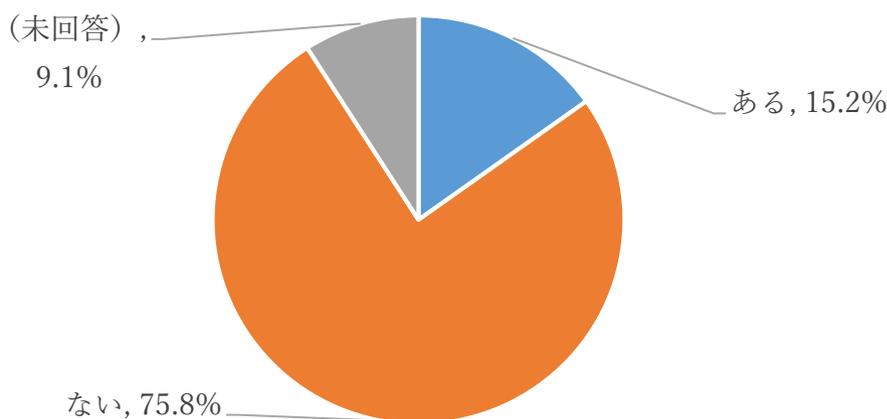


		回答者数	知っている	知らない	(未回答)
全体		33	66.7%	24.2%	9.1%
性別	男性	20	65.0%	30.0%	5.0%
	女性	13	69.2%	15.4%	15.4%
年代別	20歳代以下	4	100.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	2	50.0%	50.0%	0.0%
	40歳代	3	33.3%	66.7%	0.0%
	50歳代	2	0.0%	50.0%	50.0%
	60歳代	14	64.3%	21.4%	14.3%
	70歳代以上	8	87.5%	12.5%	0.0%
区別	門司区	2	50.0%	0.0%	50.0%
	小倉北区	4	100.0%	0.0%	0.0%
	小倉南区	8	75.0%	25.0%	0.0%
	若松区	0	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	5	60.0%	40.0%	0.0%
	八幡西区	12	41.7%	50.0%	8.3%
	戸畑区	2	50.0%	0.0%	50.0%

全体として、「知っている」が6割を超えている。

年齢別では、20歳代以下は回答者全員が「知っている」と回答し、また、70歳代以上では回答者の8割以上が「知っている」と回答している。

問9-4 問9-2で「21 知らない」以外を選択 した方にお尋ねします。  
団体の活動に参加したことがありますか。



		回答者数	ある	ない	(未回答)
全体		33	15.2%	75.8%	9.1%
性別	男性	20	15.0%	70.0%	15.0%
	女性	13	15.4%	84.6%	0.0%
年代別	20歳代以下	4	25.0%	75.0%	0.0%
	30歳代	2	50.0%	50.0%	0.0%
	40歳代	3	0.0%	66.7%	33.3%
	50歳代	2	0.0%	100.0%	0.0%
	60歳代	14	21.4%	64.3%	14.3%
	70歳代以上	8	0.0%	100.0%	0.0%
区別	門司区	2	0.0%	100.0%	0.0%
	小倉北区	4	25.0%	75.0%	0.0%
	小倉南区	8	25.0%	75.0%	0.0%
	若松区	0	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	5	0.0%	80.0%	20.0%
	八幡西区	12	16.7%	75.0%	8.3%
	戸畑区	2	0.0%	50.0%	50.0%

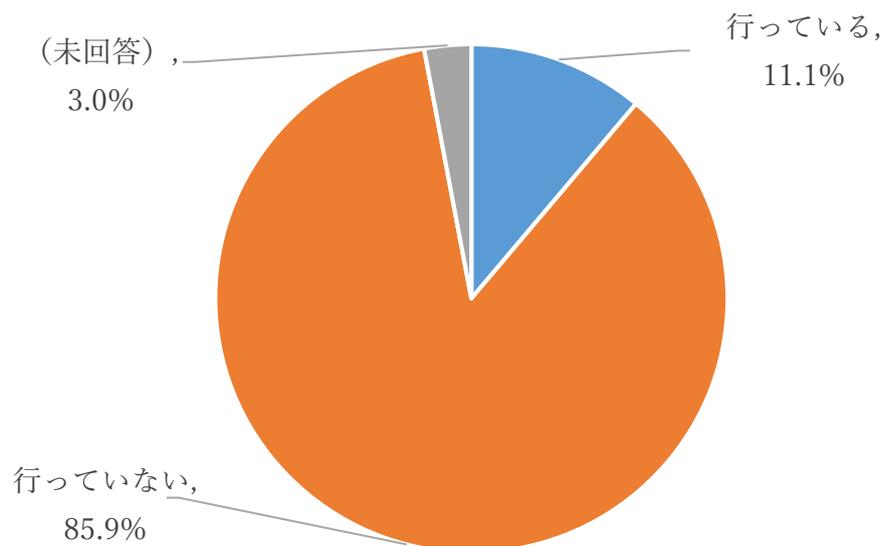
【問9-4で「1 ある」を選択された方の回答】

- ・グリーンワーク、植樹（男性 60歳代 小倉北区）
- ・環境保全…清掃等 外来種の駆除（女性 70歳代 小倉南区）
- ・北九州ビオトープネットワーク研究会 池の生態系の保全（男性 20歳代 八幡西区）
- ・小倉南区中谷地区 竹炭を川に敷きつめる河川浄化作業（男性 60歳代 小倉南区）
- ・日本野鳥の会の方と当時通っていた（門司港）古城小学校とで鳥の巣箱を設置したり、保護指定されている鳥の種類を勉強したりしていたから。（女性 30歳代 小倉南区）

全体として、「ない」が7割を超えている。

年齢別でも、ほぼ全世代で「ない」と回答した数が「ある」と回答した数を上回っている。

問9-5 団体に属さず、個人的に自然環境を守る活動を行っていますか。



		回答者数	行っている	行っていない	(未回答)
全体		135	11.1%	85.9%	3.0%
性別	男性	60	13.3%	83.3%	3.3%
	女性	75	9.3%	88.0%	2.7%
年代別	20歳代以下	15	6.7%	93.3%	0.0%
	30歳代	15	13.3%	86.7%	0.0%
	40歳代	27	7.4%	92.6%	0.0%
	50歳代	19	10.5%	84.2%	5.3%
	60歳代	33	9.1%	87.9%	3.0%
	70歳代以上	26	19.2%	73.1%	7.7%
区別	門司区	13	7.7%	92.3%	0.0%
	小倉北区	22	9.1%	86.4%	4.5%
	小倉南区	33	15.2%	81.8%	3.0%
	若松区	9	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	10	20.0%	80.0%	0.0%
	八幡西区	39	7.7%	89.7%	2.6%
	戸畑区	9	11.1%	77.8%	11.1%

全体として、「行っていない」と回答した人が8割を超え、世代別でも、すべての世代で「行っていない」が7割を超えている。

## 問9-5 団体に属さず、個人的に自然環境を守る活動について、「1 行っている」を選択された方の具体的な活動内容

団体に属さず、個人的に自然環境を守る活動について、具体的に15件の回答をいただきました。主なものは以下のとおりです。

- ・ゴミを捨てない 油を排水溝に流さない（女性 40歳代 八幡西区）
- ・自宅周辺の溝の掃除（最終的に川に流れ込む水）。（男性 60歳代 小倉南区）
- ・ごみの分別活動（男性 50歳代 八幡西区）（女性 40歳代 門司区）
- ・道路のごみを見つけたときは、可能な限り拾うようにしている。（男性 70歳代 八幡東区）
- ・家庭菜園、花壇に、虫や、鳥に害を及ぼす可能性のある農薬、殺虫剤はまきません。  
殺虫剤で死んだ虫を食べた鳥は、死なないまでも体調に変化をきたすことがあるのではと思います。自然、生物多様性を進めていくなれば、市をあげて有機栽培の野菜、米作りを支援するべきではないでしょうか？（女性 50歳代 若松区）
- ・公園愛護会活動（男性 70歳代 八幡西区）
- ・省エネを心がけ、環境の汚染を考え洗剤、身に付ける物を選び資源を有効に利用し違法投棄をしない（女性 70歳代 小倉北区）
- ・ゴミ拾い（男性 20歳代 小倉南区）
- ・メジロ、ウグイス等の小鳥たちの鳴きごえを楽しみの、実のなる木を育てています。椿、なの実等（男性 60歳代 小倉南区）
- ・小さいことかもしれませんが、マイバッグやゴミの分別等、家庭内で可能な限りでは努めている。マイボトルの持ち歩きも子供にも習慣化してよかった。（女性 30歳代 小倉南区）
- ・除草剤を使用しない。米のとぎ汁などは庭にまき、排水口に流さない。洗剤をなるべく自然系のものにする。（女性 60歳代 小倉南区）
- ・ゴミの分別、マイバスケット利用食材ロスを減らす（男性 30歳代 八幡東区）
- ・リサイクルできるものは、それぞれの場所に持って行く。水を必要以上に使わない。洗剤を出来る限り石けんにし使用しない。ハトや捨て猫にえさをやらない。ゴミ出しは、カラスに食べられないように心がける（女性 70歳代 戸畑区）

マイバック持参やゴミの分別、ゴミ拾いなどの回答が多い。また、「排水口に油を流さない」など、環境汚染を考慮した回答が見られる。

**問10 最後に、本市の自然環境に関する取り組み等についてのご意見等ございましたら、ご記入願います。**

74人の方からご意見等いただきました。主なものは以下のとおりです。

**周知・PRについて**

- ・せっかくよい取り組みをしているのに、ほとんど知らなかった。自分の勉強不足を痛感する。  
北九州のホームページトップに目立つショートカットを張り付ければもっと目にする機会が増えると思う。
- ・いままで自然環境の保全などの取り組みにかんして情報を得られる機会が少なかったため、よみやすいで情報ツールで提供してほしい
- ・北九州市が誇る自然環境の保全活動へ市民を巻き込むためには、会社や法人のCSR活動にうまくはまり込むのが効果的かと思います。
- ・本件に関しては知らないことが沢山あります、広報の方法をご検討下さい。  
特定団体だけでなく市民全体が参加する、出来る仕組みが必要かと思います。まずは河川のゴミの除去が必要だと思います、大雨の度に川のゴミが海へ流れ込んでいると推察しています。
- ・市民なら誰でも目にする「市政だより」で、もっと詳しい紹介をしていただければもっと周知を図れると思います。(より詳細な情報が得られるURLを含む)
- ・学校向けに、この場所はこんな魅力がある・こんなイベントがあるというような、プリントを作成して頂きたい。
- ・自然環境の取り組みの内容をもっと周知してほしい。
- ・北九州市の自然環境に関する取り組みで知らないことが多かったので広報などで知る機会を増やして欲しいと感じた。
- ・自然環境については、市民も福祉や税に比べ、意識が高くないのが現状です。継続的な広報をお願いします。
- ・取り組みを知らなかったのもっと一般の市民が知ることができるような周知を図ることが必要だと思う。
- ・あまり自然環境への取り組みが周知されていないと感じる。
- ・どの様な事をしているかもっと市民に知らせてほしい。
- ・ツアーがあるのを初めて知りました。  
市政だよりなどで紹介されているのですが、もっと広く知らせてもらえればと思います。
- ・北九州市が「SDGs」の先駆者として、積極的な活動を行っていることを昨年知った。同時に「SDGs」の言葉・内容についても、恥ずかしながら知ることになりました。素晴らしい活動を永く行っているのに、多くの市民が知っているのかなと思います。もっとPRも必要ではないでしょうか。

**周知度・認知度について**

- ・自然環境に興味がないから注意して見てなかった。これからは考えたいと気づいた。
- ・今回、自然環境についてのアンケートの設問には自分の無知を感じないわけにはいきませんでした。以前、教育委員会の子供たちの夏休みの体験ツアーイベントで仕事として自然に少し関わったくらいでした。設問のたびにネットで意味を調べたりしながら答えて行ったというのが事実でした。い

い勉強をさせていただきました。これからは北九州市がどのような事に取り組んでいってるのか、もっと関心を持っていたいと思いました。

- ・ S 4 8 年 4 月に北九州市に主人の転勤で来ました。こんなにも自分が自然環境について知らない事に自分でびっくりしています。この機会に少し勉強したいと思ってます。
- ・ 子供が小さい時は平尾台や山田緑地・・・水環境館などの展示物で北九州の自然環境についての情報知識も少しはあったのですが最近ではすっかりその場にも行く機会も無くなりました。今回のアンケートも知らない事だらけで、また色々足を運び取り組みについても考えたいと思いました。
- ・ 自然環境の保全等、知らないことばかりでした。希少種の生態系の保全が重要だと思いました。
- ・ 正直、取り組んでいる内容や団体に対しての市民の意識は薄いと感じます。私は子どもの頃から自然にかこまれ学校を通して関わっていた（門司港で言うと古城小学校と野鳥の会・和布刈のクリーン活動・早鞆中学校では白野江の海の清掃活動を通じての学習カリキュラムの取り入れ）ので何となく環境保全や活動についての事は知っていますが、中々市民の意識付けはもっと広告や活動参加の促しを行った方がいいと思います。
- ・ 自然環境に関する取り組みこんなにしているんだと気がつきうれしくなった。自然体感ツアーなど機会があれば参加したいと思う。

#### 取り組みについて

- ・ 良く取り組んでいると思います。
- ・ 今回のアンケートで北九州が自然環境に関する取り組みをいろいろとしていることを知った。自分は愛知県から北九州に来て約 1 8 年になるが北九州の自然のことをぜんぜん知らないことを知った。体験ツアーなどとても興味深いこともしていると今回わかったので、もっと大々的にしてもらえると参加する人も増え、自然環境に関する興味もわくと思う。
- ・ 子供が産まれてからは、さらに自然の大切さ有り難さを感じてます。子供が自然体験できる場をもっとわかるようにしていただけたら参加していきたいです。
- ・ これからも取り組みを継続してください。
- ・ 北九州市は、とても住みやすい場所だと思います。自然豊かだと思います。今後も自然を破壊しないように努めてほしいです。
- ・ ホタルの育て親を募集するなど、市民を巻き込む（関心を持ってもらう）仕組みは評価できる。より多くの活動を、他の取り組みにも導入することを期待したい。
- ・ 自然保全や、ガイドツアーなど興味はあるが、足が悪いので、躊躇してしまう。体の不自由な人でも安心して参加できるものがあれば参加してみたい。
- ・ 自然環境保全に取り組む対策やボランティア団体がある事を初めて知りました。ただ、直ぐに活動できるかと言えば、色々な事情から出来ませんが、身近な事から自分なりの活動は行いたいと思います。例えば、洗剤を変える（環境に良い物）、生ゴミを肥料として庭に埋める。自然環境にふれあうツアーに参加等を行っていかうと思います。又、知人にこの様な取り組みが市で行っている事を知らせたいと思います。
- ・ 北九州市の自然環境に関する様々な取り組みについて、ほとんど、知らなかったです。北九州市は、工業都市でありながら、豊かな自然に恵まれており、とても住みやすい環境だと思います。

今後も様々な取り組みの継続をお願いします。

#### 外来種等について

- ・北九州市で何が外来種で在来種なのかわからない人がほとんどで、みんな特に興味もないから増えようと減ろうとなにも思わない。  
興味がある人だけが知ってるんじゃなく、もうちょっと興味の無い人の目にもとまって、少しでも心に残るように工夫するべきだと思う。
- ・私の家の近くに金山川が流れていますが、時々、大きな亀が遊歩道で見つかります。外来種だと言う人がいます。在来種のカメに被害を与えるのであれば、駆除が必要かとおもいます。駆除しないと、行けない生物の種類及び駆除方法があればと思います。
- ・もっと積極的な害獣対策へ予算を割くべき（猪、猿、アリ等）ハンター組織との連携（明確な許可と責任の所在、どこかであった猟友会と警察の確執などがおこらないようになど）

#### その他

- ・自然環境の重要性は理解しているつもりだが、自然環境に対する新しい考え方や取り組みが次々と変わっていくので、追いつかないのが実情。  
もう少し、日常生活をする中で、背伸びすることなくやれることを広めて行って欲しいと感じます。
- ・家庭菜園、花壇に、虫や、鳥に害を及ぼす可能性のある農薬、殺虫剤はまきません。  
殺虫剤で死んだ虫を食べた鳥は、死なないまでも体調に変化をきたすことがあるのではと思います。  
自然、生物多様性を進めていくなれば、市をあげて有機栽培の野菜、米作りを支援するべきではないでしょうか？
- ・アウトドアタイプでない小生は自ら海や山や川へ出て行った記憶は有りませんが海や山や川やそして街並み等風景をその有り様が何故、どうしてこうなったのか…？そして今後どう変わっていくのか興味があります。その変化には、全く自然な変化と人工的な変化とが考えられ、自然の変化（エネルギー）が人類に害を及ぼすことを未然に防ぐための人工的な変化もあるかもしれません。ボランティア活動に公園の除草や花壇の美化活動があります。多くの高齢者に参加頂き、おしゃべりしながら手先を動かす。又サロン開き、童謡や唱歌を大きな声を出して楽しんで頂く、輪投げを右手5本、左手5本ずつ投げ点数を競う、認知症予防等企画し実行しています。自然環境への関与の有無と健康寿命の相関関係の有無など出せたら、より関心が深くなると思う。
- ・未来の人達に自然のあるがままの姿を維持する努力を望みます。  
時空を超えて天然の存在の重要性を伝えて生きたい。
- ・私の勉強不足が一番の原因ですが、今回の自然環境に対する市や民間の取り組みが有る事を知りませんでした。  
環境の適切な保全に費用が要する事は、市民の理解を得られるでしょう。  
子供達が将来も住みたいという街（北九州市）を守って行く必要が有ります。

## IV 全体考察

豊かな自然環境を将来に渡って守り、市民と自然のふれあいを推進することなどを目的として、平成17年9月に「北九州市自然環境保全基本計画」を策定、平成20年6月に生物多様性基本法が施行されたことを受け、前述基本計画を改定する形で、平成22年11月に「北九州市生物多様性戦略」を策定し、生物多様性の確保に向けた様々な取り組みを進めてきた。

その後、国際的には生物多様性条約第10回締約国会議(COP10、開催地:愛知県名古屋市)において生物多様性に関する世界目標「愛知目標」が採択され、国内では愛知目標の達成に向けた「生物多様性国家戦略2012-2020」が策定されるなどの変化があった。

こうした動向を踏まえ、本市においては、生物多様性の現状や国家戦略で示された4つの危機による生物多様性への影響・課題を示すとともに、「都市と自然との共生 ～豊かな自然の恵みを活用し自然と共生するまち～」の基本理念を実現するため、平成28年3月に第2次北九州市生物多様性戦略を策定し、様々な取り組みを進めている。今後の本市の自然環境や生態系の保全に関する取り組みの参考にするため、本アンケートを実施したものである。

### 1 北九州市の自然について

北九州市の自然について、思い浮かべる場所では、全体では、「平尾台(35.5%)」が最も多く、自由記入では回答者の居住区から連想される回答が多い。また、思い浮かべる生き物では、「ホタル(41.7%)」が最も多く、自由記入では「思い浮かばない」または「なし」と回答した人が多い。

その他、北九州市の自然として思い浮かべるものの自由記入では、海産物や農産物といった食べ物の回答が多く、また、土地や風土などの住環境に関連する回答が多い。

### 2 生物多様性について

#### (1) 生物多様性について

「生物多様性」という言葉や意味を知っていると回答した方が半数を超えた。言葉・意味を知っていると回答した方に重要性について聞いたところ、知っていると回答した方が多い。知った方法としては「テレビや報道番組、本から」という回答が多く、30歳代以下では「授業、学校」という回答が多い。

重要性については、「生物や農作物などが生息・生育する場(環境)の提供」と回答した人が、全体・性別・年齢別すべてで最も多く、重要性が失われた場合の回答でも、「生物や農作物などが生息・生育する場(環境)が失われる」が全体として最も多い。

#### (2) 本市の生物多様性戦略について

本市の生物多様性戦略を「知っている」と回答した方は約6%で、全員が50歳代以上である。7割以上の方が「本市HP」で知ったと回答しており、本市生物多様性戦略の「基本理念」および「基本目標」を知っていると回答した人が多い。

#### (3) 本市の生物多様性戦略を推進するための取り組みについて

生物多様性戦略を推進するため、様々な取り組みを行っており、自然環境の保全に関する取り組みについて、「知っている」が60.4%、「知らない」が39.1%であった。「知っている」と回答した方では、「響灘・鳥がさえずる緑の回廊創成事業」及び「季節ごとに実施している自然体感ツアーやカブトガニ産卵観察ツアーなどのツアー」とした人が最も多い。自

然環境保全に関する取り組みについては、「市政だより」で知った方が最も多いが、次に多いのは「その他（自由記入）」で、テレビや授業、どこかに行った際という回答が多い。

どのような取り組みを知りたいかについては、「自然環境にふれあうツアーなどの開催案内や実施結果」や「森林や海岸などの自然環境の適切な保全対策」と回答した方が多い。

### 3 自然体感ツアーについて

自然体感ツアーについては、「知っている」が33.3%、「知らない」が65.2%であった。「知っている」と回答した方でも「参加したことがある」と回答した方は2%ほどである。

### 4 響灘ビオトープについて

響灘ビオトープについて、「知っている」と60%以上の方が回答し、本市HPやテレビ、市政だよりなどで知った方が多い。ただし、「知っている」と回答した方でも、「行ったことがある」と回答した方は35%ほどで、知っていても行ったことがないことがわかる。

### 5 希少動植物の保護・保全及び外来種について

#### (1) 希少動植物について

希少種で最も知られているのは「カブトガニ(55.4%)」で、次に「ベッコウトンボ(15.1%)」である。保護・保全対策では、「その種が生息する土地の管理状況(28.0%)」「市民の関心度(15.5%)」が重要だと考えられている。

#### (2) 外来種について

外来種で最も知られているのは「ブルーギル(22.9%)」で、「ウシガエル(22.3%)」「オオクチバス(ブラックバス)(21.7%)」「アライグマ(19.7%)」と4つの回答が多い。外来種対策を行わないといけない理由では、「生態系の保全(30.9%)」と回答した方が最も多く、「在来種や希少種の保全(26.2%)」「自然環境の保全(24.8%)」と続く。

### 6 曾根干潟と平尾台について

曾根干潟と平尾台が日本の重要湿地に選定されていることについて、全体として「知らない(62.2%)」と回答した人が多い。「知っている」と回答した方は、「環境省HP(37.3%)」やテレビや新聞、チラシなどの情報源で知った人が多い。

### 7 自然環境の保全に取り組む団体について

自然環境の保全に取り組む団体について、「知っている」が24.4%、「知らない」が74.8%であり、全ての世代で「知らない」と回答した人が「知っている」と回答した人を上回った。

「知っている」と回答した人の中では、どのような団体を知っているかについては、「福岡県立北九州高校魚部(18.6%)」と回答した人が最も多く、「日本野鳥の会北九州(17.6%)」と回答した人が次に多い。「知っている」と回答した人は、団体の活動内容について「知っている」と回答した人が66%以上であるが、団体の活動に参加したことがあるかについては、「ない」と回答した人が75%を超えており、知ってはいるが参加はしていないということがわかる。

また、団体に属さずに個人的に自然環境を守る活動については、「行っていない」と回答した人が80%を超え、世代別でもすべての世代で「行っていない」が70%を超えている。

## 8 まとめ

本市の自然環境について、代表的な場所である「平尾台」や「ホタル」、希少動植物については「ブルーギル」や「ウシガエル」等、印象的なものについての認知度は高い。

思い浮かべるもの（場所、生き物など）の種類が少なく、全体的に自然環境への興味が低い。

「場所」については純粋な自然とともに作られた環境である「公園」を思い浮かべる方も多く、自身が行ったことのある場所や広報が多い場所の認知度が高い。

生物多様性という言葉や本市の自然環境保全活動については半数以上が認識しており、アンケートを通じて本市がよい取り組みを積極的に行っていることを知った、取り組みを継続してほしい、とした意見が見られた。

情報を得る手段・媒体としては、「市政だより」「ていたんプレス」「ホームページ」「新聞・テレビ」「教育（学校、講座）」となっている。

今後、上記結果を参考として、各種媒体を使い、積極的に情報発信していく必要がある。